

取組事例の紹介

1 取組の主要テーマ

働きやすく質が高い、「誰もが働きたくなる病院」になる！

2 医療機関の属性

病 院 名 公益社団法人 取手市医師会 取手北相馬保健医療センター医師会病院

所 在 地 茨城県取手市野々井1926

病 床 数 207床

入院基本料 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料5）10対1

職 員 数 384名

3 取組課題

病院職員が明るく元気よくポジティブに働くことができる

4 取組内容

- ・働き方・休み方に関する課題
- ・働きやすさ確保のための環境整備（ソフト・ハード）に関する課題
- ・働きがいの向上に関する課題

5 取組のきっかけ、取組前の問題点

病院職員満足度調査において、病院や上司に対しての不満が高かったため、看護職員に対し、「病院や看護部の良いところを見つけよう」という取り組みを行っていた。その結果、「スキルアップするための研修を受けやすい」「子育てしやすい」「地域のための病院に働けてうれしい」などのポジティブな意見が出るようになった。「看護職のWLB推進ワークショップ」に参加することで、それまで以上に良い職場環境にすることができ、看護職員だけでなく、病院職員もポジティブに変化できると考えた。

6 取組の体制・中心人物

看護職員（看護部長、主任、病棟看護師、外来看護師）、看護補助者、総務課職員が中心となり取り組んだ。また、その他プロジェクト実施時は、チームを立ち上げ、薬剤科、検査科、リハビリテーション科などのコメディカルも参加して取り組んだ。

7 取組の概要

◇職員間の交流

他職種との交流を図るため、職員運動会や忘年会での「頑張ったで賞」を企画し、実施した。その後も年1回忘年会での表彰を継続している。また、看護部内では年1回のバス旅行、お食事会、ヨガ教室などの催し物を実施している。

◇院内保育所の拡大

院内保育所が拡大し、夜勤明けや休日の預かりが可能となり、母親が休息をとる時間をとることができるようになった。さらに、病児・病後児保育も可能になり、安心して預けられる環境が整った。

◇休暇制度の見直し

看護休暇が有給でとれるようになり、子どもの急な病気や予定の予防接種などに有効に利用できるようになった。

◇チーム医療の推進

薬剤師の病棟配置、病棟クラークおよび看護補助者の病棟配置人数が増加し、チーム医療の推進ができた。

◇長期研修、資格取得への支援

認定看護師、特定行為研修、実習指導者講習など長期研修を受講する風土が根付いた。

8 実施後の成果や見えてきた課題

◇取り組み後のWLBインデックス調査では、すべての項目で「良い」という回答が増えた。

しかし、依然として組織や上司に対する不満の回答がある。そのため、管理者研修を継続的に行うこととなった。今後は、上司である管理者が自己の課題を見出し、取り組み、成果を出す必要がある。

◇取り組み後は、入職者が増加し離職率が低下した。働きやすい環境だけでなく、病院に働く

職員として、個人個人が自己研鑽し質を高めることで、地域住民から選ばれる病院になることが重要である。

◇看護職員の絆は深まり、他部署間の連携も取りやすくなったが、他の職種間にはまだ拡大で

きていない。病院職員全体に拡大するまで継続していくことが今後の課題である。